

1 研究主題

総合的な探究の時間における「表現力」の育成を促す指導計画と発表機会の創出
－「新聞切り抜き作品の制作」をとおして－

2 主題設定の理由

本校の生徒は真面目で落ち着いており、学習活動だけでなく部活動や学校行事にも積極的に取り組んでいる。一方で、人前で意見を述べる機会が少なく、発表に苦手意識をもつ生徒が多い。自分の考えを論理的に構成して表現する経験も十分ではないと考える。

そこで本研究では、第2学年の生徒を対象に、総合的な探究の時間をとおして、以下のような「表現力」の育成を目指す。

ア 資料の色彩の使い方や人が関心を引く言葉選びなど、効果的に表現する力

イ 自分の考えを説得力のある図やデータ等を用いて、堂々と相手に伝える力

これらの力を育むために、段階的な発表機会を設け、人前で発表することへの抵抗感を和らげることを目指す。将来、大学での論文発表や社会でのプレゼンテーションに自信をもって臨める生徒の育成につなげたい。

3 研究計画・研究方法

これらの仮説に対する手立てとして、次の方法で取り組んだ。まず、授業を担当する教員の理解と協力を得るため、学年会や総合的な探究の時間に関する会議の場で研究の目的と意義について説明を行った。他の教員からの意見を取り入れながら、指導計画を改善し、学年全体で連携して授業を進める体制を整えた。

(1) 第一段階：新聞切り抜き作品の制作と発表

初回の授業では、作業の進め方、制作の目安、評価の観点について説明を行った。グループは、クラスの枠をなくし3から4名で編成した。グループで新聞切り抜き作品を制作し、発表を行い、他者からフィードバックを受ける機会を設けた。さらに、クラスから代表グループを選出し、体育館にて1、2年生全体に向けた発表会を実施した。多人数の前で発表する経験をとおして、表現力の向上をねらいとした。

クラスでの発表では、作品の黑板掲示とロイノートスクールを用いて作品の画像を共有した。体育館での発表は、通信環境に制約があるため、事前に生徒のタブレット端末に作品の画像を配信し、デスクトップに保存させて発表を行った。



(中日新聞N I E コーディネーターから制作の助言を頂いている様子)



(体育館での全体発表会の様子)

4 研究の実践と検証

(1) 発表への不安の変化

発表に対する不安の程度・変化について、1年生 171 人、2年生 194 人、それぞれにアンケートを実施した。

〔設問〕発表をすることに対して、どの程度不安があるか。(1年生へのアンケート結果)

とても不安がある	少し不安がある	特に不安はない
34.5% (59 人)	49.1% (84 人)	16.4% (28 人)

〔設問〕発表をすることに対して、どの程度不安があるか。(2年生へのアンケート結果)

とても不安がある	少し不安がある	特に不安はない
24.2% (47 人)	56.2% (109 人)	19.6% (38 人)

〔設問〕発表後、今回の発表の経験をとおして、発表をすることへの抵抗感の変化はあるか。上のアンケートで「不安がある」、「少し不安がある」に回答した 2 年生徒 158 人に回答を得た。

減った、やや減った	変わらない	増した、やや増した
23.4% (37 人)	60.1% (95 人)	16.5% (26 人)

特に、同様の設問において、体育館で全体発表をした生徒 31 人の回答は次のようになった。

とても不安がある	少し不安がある	特に不安はない
10 人	16 人	5 人

その中でも「とても不安がある」、「少し不安がある」と回答した 26 人中

減った、やや減った	変わらない	増した、やや増した
9 人	12 人	5 人

これらの結果から、1年生、2年生ともに、発表に対して「不安がある」、「少し不安がある」と回答した生徒が多数を占め、発表に対する不安の高さが明らかになった。さらに、今回の発表経験で、不安が「減った」、「やや減った」と回答した生徒が 39 人いた。特に体育館での全体発表を経験した生徒の記述には以下のような声があった。

- ・すごく緊張してうまく発表できるか分からなくて不安だったけど班のみんながスムーズに回してくれたし聴いている人も 静かに新聞を見ながら聴いてくれたので嬉しかった。
- ・全体の前で話すと、自分が調べたことでも緊張して前を見て話せなかったです。見ている人に問いかけをするときは、強調して話したり、目を見て問いかけたりすると、見ている人の印象に残りやすいのかなと思いました。

これらの記述から、発表経験そのものが不安の軽減に寄与し、表現に対する気付きを促していることが確認できる。

(2) 自己評価の結果

新聞切り抜き作品の制作と発表について、以下の 3 観点で自己評価を行った。

	プレゼンテーション力 (発表の姿勢や態度、声の 大きさ、速さ、言葉遣い)	テーマ性(作品のテーマ は明確で、作品全体をと おした一貫性)	作品の表現力(記事の配 置、見出しの選び方、文字 の大きさや色の工夫)
5 (良)	8.3%	23.1%	34.4%
4 (少良)	37.6%	47.7%	38.5%
3 (普通)	45.9%	25.6%	17.4%

この結果から、プレゼンテーション(発表)に関する評価が最も低く、「緊張した」、「下を向いてしまった」、「原稿を見すぎた」などの準備不足や経験不足に起因する意見が多かった。一方で、作品のテーマ性や表現力に関しては高く自己評価する生徒が多く、制作活動をとおして一定の達成感が得られたことがうかがえた。

このことから、制作段階では工夫や達成感を得やすい一方、発表場面では準備不足や経験不足が課題として残ることが明らかになった。

(3) 他者の発表からの学び

1年生は「ナゾ解明型探究」に向けて、2年生は「困りごと解決型探究」に向けて、他者の発表を聴き、感じたことや次の発表に向けて意識したいことを記述させた。主な意見は以下のとおりである。

- ・テーマに合わせたデザイン構成をしていた。
- ・分野別や重要度別に色分けをしていた。
- ・「〇〇を見てください」と分かりやすく発表を聞いた。
- ・最初に質問を投げかけて興味を引かれた。
- ・自分たちの意見や考察をしっかりと述べている。
- ・原稿はなるべく見ずに聞き手をみて話したい。
- ・聞き手のことを考え、注目して欲しい記事を読む時間を取ってくれて聴きやすかった。
- ・今日の先輩たちのように、はっきり堂々としゃべりたい。

これらの記述から、生徒が「表現」を意識して発表を聴いていたことが分かる。さらに、1年生にとっては、来年度の活動のイメージを具体的にもつ機会にもなった。



(新聞切り抜き作品)

5 新聞切り抜き作品制作の活動の成果

アンケートでは、新聞を読む習慣がほとんどない生徒が多かったが、活動後には以下のような意見が見られた。

- ・ひとつの事柄についてもそれぞれの新聞社によって視点が違っておもしろいと思った。
- ・知らないことを知れた。
- ・普段読まないジャンルに触れることができた。

これらの意見から、社会への関心やメディアリテラシーの向上も見られたと考えられる。単なる「記事の切り抜き」ではなく、情報を比較し自分の考えをまとめる多面的な情報理解の活動となったと考えられる。

また、約8割の生徒が、新聞切り抜き作品の制作・発表について、「楽しかった」、「まずまず楽しかった」と回答した。一方で、他クラスの生徒とグループ編成されたため、生徒同士連絡を取りあえず準備が進まないといった課題もあった。しかしながら、全てのグループが作品を完成させた経験は、生徒にとってコミュニケーション力を高める貴重な機会となった。困難のある環境の中でも活動を楽しみながら取り組む姿が見られた点は大きな成果であった。

6 今後の課題と改善策

今年度は、新聞切り抜き作品の制作及び体育館での全体発表会を初めて実施した。その中で以下の三点が課題としてあがった。

(1) 活動の見とおしを持たせる指導の不足

今回、新聞切り抜き作品の完成形の見本を提示したものの、作品のイメージを十分に共有できないまま活動に入ったグループが多く、序盤の進捗が思うように進まなかった。アンケートの「次の発表に向けて、改善したいこと・意識したいこと」の結果を分類すると、以下のような結果であった。

計画性・テーマ性に関する記述……………45%

プレゼンテーション力に関する記述…30%

作品の表現力に関する記述……………13%

コミュニケーションに関する記述……5%

制作に時間がかかったことが最も大きな課題として挙げられた。したがって、制作工程ごとの締め切りを設定するなど、活動の見とおしをもたせるための指導上の工夫が必要である。

(2) フィードバックの不足

クラスでの発表後、紙媒体の評価シートを返却したが、評価シートを授業内で読む時間を確保できず、さらに班に1部しか配付しなかったため、実際に目を通した生徒は非常に少なかった。フィードバックは表現力の向上には不可欠であるため、評価シートを読む時間の確保や、評価シートを個々で閲覧できる仕組みが必要である。今後は、フィードバックまで含めた授業構成を意識したい。

(3) 発表準備に関する指導の不足

発表の手順についてはテンプレートを提示したものの、それだけでは十分ではなかった。体育館での発表では、1日目は司会者の紹介後すぐに発表が始まったが、2日目は教員が舞台袖で「司会者に紹介されたら礼をして始めてね。」と助言したことで、発表の雰囲気改善された。また、自己紹介を入れることや、タブレット端末上の資料を示す際に「〇枚目をご覧ください」といった言葉を添えることなど、基本的な発表スキルの指導が必要であると感じた。したがって、発表の基本動作や話し方など、基礎的な発表スキルの事前指導を行う必要があった。

(4) 次の活動への活用

本校の総合的な探究の時間では、「困りごと解決型探究」の発表が控えているため、今回のアンケート結果や生徒の気づきを共有し、発表につなげていきたい。特に、発表に不安を抱える生徒は依然として多いため、「問いかけや話し方が参考になった」、「すごく堂々と話していた」など、今回の発表者に対する肯定的な感想を伝え、自己肯定感を高めながら発表活動に臨めるよう支援することが重要である。